

神奈川・西

～歴史のこる街、神奈川区から横浜の中心、西区をめざして～

距離
約4.0km

所要時間
約1時間

神奈川区・西区埋め立ての歴史

“横浜の父”とも呼ばれる高島嘉右衛門は、鉄道用地の埋め立てに力をつくし横浜の発展に大きく寄与したと言われています。横浜（現在の桜木町）から神奈川までの間の埋立事業を行い、その名は神奈川区の「高島台」や西区の「高島一丁目」「高島二丁目」の地名として残っています。このルートでは、もともと陸地だった神社や歴史が残る場所から、埋め立てられた新しい街並みへの変化を味わうことができます。

5 高島水際線公園



▲ 潮入りの池は、帷子川の河口とつながっており、海の水と川の水が混ざり合っています。こういった場所にはカニがたくさんいたりします。

JRの貨物線を境に東側と西側に分かれています。対岸のポートサイド公園やペイクォーターを眺めながら、のんびり過ごせます。

4 みなとみらい橋



ウミネコ
ハマウイング



橋の上からは、ハマウイング、ベイブリッジを眺めながら海を感じることができます。運が良ければシーバスや軍艦船も見ることができるかもしれません。橋の中央には、神奈川区と西区の境目があります。ここから先は西区の海さんぽです。

1 慶運寺(別名:浦島寺)



慶運寺は、室町時代に定運社音嘗聖観によって創建されたと伝えられており、横浜が開港した際にフランス領事館として使われていたとされています。明治期に浦島太郎伝説が伝えられていた観福寿寺と合寺したことから、浦島寺と呼ばれています。観音堂には、竜宮城に行ったときに乙姫から授けられたとされている観音像が安置されています。

	JR線		東急東横線
	京急線		市営地下鉄線
	みなとみらい線		明治期の海岸線

出典：地図は、横浜市の都市計画図をもとに作成しています。
【横浜市地形図複製承認番号 令2連都計第9010号】
明治期の海岸線は、国土地理院古地図コレクションサイトの「迅速測図原図（フランス式彩色図）」をもとに作成しています。



2 成仏寺



▲ 本堂の左側には、浦島太郎が両親の死を悲しみこしかけて泣いたとされている涙石があります。

成仏寺は、横浜が開港した際にアメリカ人宣教師の宿舎として使われていたとされています。

3 横浜市中心卸売市場



横浜市中心卸売市場は、昭和6年に全国で3番目に開設された歴史ある市場です。日本全国から生鮮食料品が集められ、横浜市のみなさんの食卓に安全で新鮮な美味しい食材が届けられています。また、市場の一般開放日には、マグロの解体ショーなどのさまざまなイベントが開催されています。

※ イベント開催については、横浜市中心卸売市場HPをご確認ください。

市場の一般開放について



コラム



神奈川区には亀のモチーフが所々にあります。神奈川区に伝わる浦島太郎伝説は、一般的に親しまれているお話とは内容が少し違います。ある日、太郎が大きな亀を釣ると、その亀が乙姫となり竜宮城に連れて行ってくれました。太郎が竜宮城から家に帰ろうとすると、乙姫は別れを惜しみ玉手箱と観音ぼさつを太郎に授けました。故郷に帰ると、この観音ぼさつのお告げにより、両親がすでに亡くなってお墓が神奈川にあることを知ります。その後、太郎は神奈川に向かい両親のお墓のそばに観音像を安置したと伝えられています。